



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

6月号—No.361

2025.5.25

(毎月1回25日発行)

【冥色(めいしょく)】夕暮れ時の空のような深く渋い青色。

「冥」には、暗い、光がない、あの世、神仏の力などの意味がある。冥ではじまる言葉は「冥界」「冥土」「冥加」「冥利」「冥想」などことなく神秘的で、夕闇が迫る風情を詩的に表すにはもってこいの色名になっている。

●目次／contents

今月のニュース..... 2

令和7年度公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)全体研修会報告

財団からのお知らせ..... 4

地域創造フェスティバル2025開催のお知らせ／令和7年度「公共ホール音楽活性化支援・市町村連携事業」全体研修会実施／令和7年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」募集開始時期について／令和6年度事業報告書 ホームページ公開のお知らせ／令和7年度「市町村長特別セミナー」報告

今月の情報..... 6

地域通信

今月のレポート..... 12

滋賀県大津市 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
びわ湖の春 音楽祭2025

●令和7年度公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)全体研修会

2025・2026年度登録アーティストが初めての公開プレゼン

令和7年度 公共ホール 音楽活性化事業 全体研修会

2025年4月21日～23日



公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)では、実施館の担当者、コーディネーターや登録アーティストが一堂に会する全体研修会を実施しています。今年度は4月21日～23日に開催し、22日には2025・2026年度登録アーティスト5名がTOPPANホールで初めての公開プレゼンテーション(各25分のショーイング)に挑みました。

●立場を超えたチームづくりを目指す

研修は、参加館の担当者、コーディネーターが共に参加するワークショップで幕を開けました。ファシリテーターは、地域創造のリージョナルシアター事業派遣アーティストでおんかつコーディネーターも務める演出家の多田淳之介さんです。多田さんは昨年度から2カ年事業として福島県で展開している「公共ホール創造ネットワークモデル事業」の派遣アーティストでもあります。参加館の担当者たちは初めてのシアターゲームに思わず笑顔で、立場の違いを超えた交流を楽しみました。

また、おんかつアドバイザーの大澤寅雄さん(合同会社文化コモンズ研究所代表)によるレクチャーも行われました。アクセシビリティについて平等性、効率性ではなく“公平性”の観

点から説明し、おんかつをホールと地域の仲を取り持つ“婚活”に準えて「じっと待っていても出会えないし、出会いにはさまざまな形式がある」と参加者にエールを送っていました。

2日目には、事例紹介と新規登録アーティストによる公開プレゼンテーションが行われました。事例紹介では、事業担当者の立場から令和6年度におんかつを実施した福島県西郷村教育委員会生涯学習課の天倉采雅さん(派遣アーティストはピアニストの今田篤さん)、演奏家の立場から2016・2017年度登録アーティストとして全国8市町に派遣されたマリンバ奏者の塚越慎子さんにお話を伺いました。

西郷村は人口約2万人。西郷村文化センターではこれまで本格的なクラシックコンサートを行った経験がなく、おんかつで初挑戦しましたが、本番のチケットが完売する大盛況となりました。「右も左もわからず全体研修会に参加し、今田さんの演奏に感動しました。この感動を村民のみなさんにどうすれば伝えられるかを考えながら半年間準備しました。相談できる相手がいて、何もわからない状態からでもできるのがおんかつの良いところだと思います」と天倉さん。また、塚越さんは農業従事者に向けた

写真

左上: 多田淳之介さんのワークショップ

右上: 「ホールと地域の仲を取り持つ『おんかつ』」(大澤寅雄さん)

左下: 登録アーティストプレゼンテーション(北垣彩さん)

右下: 登録アーティストプレゼンテーション(山崎由貴さん)

●2025・2026年度公共ホール音楽活性化事業登録アーティスト

- 三原未紗子(ピアノ)
- 鈴木舞(ヴァイオリン)
- 北垣彩(チェロ)
- 山崎由貴(ユーフォニアム)
- 小野寺光(バスバリトン)

●公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)に関する問い合わせ
芸術環境部 金山・北川
Tel. 03-5573-4168

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

アウトリーチや議場でのミニコンサートなどのエピソードを披露。「地域に向き合い、一緒にアクティビティをつくっていく課程で、その土地は第二の故郷のような場所になる」と振り返っていました。

●5名の個性が光った公開プレゼンテーション

トップバッターの三原未紗子さん(ピアノ)は小学校の校舎にいますかのような上履き姿で登場しました。「アウトリーチではドレミの音の背景に広がる世界観を想像する時間をもつことと、一緒に参加してもらう時間をもつことを大切にしている」と前置き。毒蜘蛛のタランチュラに噛まれた人たちが毒を抜くために踊る姿をあらわしたブルグミュラー『タランテラ』、鳥の啼き声で始まるラヴェル『悲しき鳥たち』、同じくラヴェル『道化師の朝の歌』という物語性のある選曲で教室でのアウトリーチの雰囲気を再現しました。

続く北垣彩さん(チェロ)は本格的な演奏会用ドレス姿で、4歳のときにテレビでヨーヨー・マの演奏を見たのがきっかけでチェロを始めたことと自己紹介。自分を励まし続けてくれた大切な曲のカサド『親愛なる言葉』や初めて買った子ども用チェロで練習したドヴォルザーク『ユーモレスク』などを披露し、持参したその子ども用チェロを参加者が触って響きを体験するアクティビティも行いました。「夢中になれるものを見つければ、それが自分のことを照らし続けてくれると子どもたちに伝えたい」と北垣さん。

ユニークだったのが登録アーティストでは初めての楽器となるユーフォニアムを背負って登場した山崎由貴さんです。「小学5年生のときに金管バンド部で楽器と出会い、吹いた瞬間からこの音の虜になった。知らなかった楽器がちょっと気になる楽器になれば」と話し、5キロはあるという楽器を抱えてユーフォニアムのための曲であるスパーク『パントマイム』などを披露しました。

海外経験が豊かな鈴木舞さん(ヴァイオリン)

は1682年製の銘器、グランド・アマティ(*)を携えて登場。「先月からアマティを貸与していたので、3年間演奏できることになった。1年半の南米ツアーやドイツのアルコール依存症施設でのアウトリーチなど音楽の力を感じる場面がたくさんあった。そういう力を感じてもらえるよう精進している」と言い、対話型鑑賞の方法を活かせるようコーチの資格も取得したと話していました。

ラストを締め括ったのが藤原歌劇団団員の小野寺光さん(バスバリトン)です。重厚な体格から繰り出される豊かな声量でデンツァ『フニクリ・フニクラ』を熱唱し、「世界最古のCMソングで、日本では童謡『鬼のパンツ』で知られている」と替え歌も披露しました。「声楽専攻の大学生でもオペラを観たことがなかったりする。アウトリーチではオペラは楽しい、オペラは身近だと感じてもらえるよう心がけている」と言い、教科書に掲載されている馴染みの曲でプレゼンテーションしました。

●令和7年度公共ホール音楽活性化事業参加団体一覧(全10団体)

- 宮城県登米市
- 山形県大石田町
- 福井県おおい町
- 岐阜県高山市
- 静岡県藤枝市
- 愛知県阿久比町
- 三重県鈴鹿市
- 佐賀県嬉野市
- 鹿児島県知多町
- 沖縄県宮古島市

*ニコロ・アマティが製作したストラディバリウスに並ぶヴァイオリンの銘器。

●令和7年度公共ホール音楽活性化事業全体研修会スケジュール

	4月21日(月) 地域創造 会議室	4月22日(火) 地域創造 会議室 / TOPPANホール	4月23日(水) 地域創造 会議室
10:00		「事例紹介～事業担当者編～」 天倉采雅(西郷村)、桜井しおり	「グループ別企画検討」 赤木舞、菊地俊孝、桜井しおり、佐藤良子、多田淳之介、三浦幸恵、仕田佳経
11:00		「事例紹介～アーティスト編～」 塚越慎子、三浦幸恵	
12:00			
13:00	開講式／オリエンテーション	「グループワーク～地域資源の掘り起こし②～」 赤木舞、菊地俊孝、桜井しおり、多田淳之介、三浦幸恵、仕田佳経	「企画発表」 赤木舞、菊地俊孝、桜井しおり、佐藤良子、多田淳之介、三浦幸恵、仕田佳経
14:00	「ワークショップ」 多田淳之介		
15:00		2025・2026年度登録アーティスト公開プレゼンテーション(出演順) ●三原未紗子(ピアノ) ●北垣彩(チェロ) ●山崎由貴(ユーフォニアム) ●鈴木舞(ヴァイオリン) ●小野寺光(バスバリトン)	「全体フィードバック」
16:00	「ホールと地域の仲を取り持つ『おんかつ』」 大澤寅雄 「『おんかつ』とは」 仕田佳経		
17:00	事業概要・実務説明		
18:00	「グループワーク～今日のゼミを振り返って・地域資源の掘り起こし①～」 おんかつコーディネーター7名	交流会	
19:00			

財団からのお知らせ

●地域創造フェスティバルに関する問い合わせ
芸術環境部 児島
Tel. 03-5573-4183

●公共ホール音楽活性化支援・市町村連携事業に関する問い合わせ
芸術環境部 和田・柴田
Tel. 03-5573-4185

※お詫びと訂正

・前号(5月号)P12の「地域の文化・芸術活動助成事業 連携プログラム」に以下事業名の記載漏れがございました。お詫びして訂正させていただきます。

◎大地の声×天空の響き 真言宗声明とカウンターテナーによる祈りの音楽
(公財)アクロス福岡(福岡県)、(公財)筑後市文化振興公社(福岡県)、(公財)宮崎県立芸術劇場/2025年11月

・前号(5月号)に同封した「地域創造レター」についてのアンケート」返送先に以下の誤りがありました。お詫びして訂正させていただきます。

返送先FAX番号

【誤】03-5573-4093

【正】03-5573-4060

●地域創造フェスティバル2025開催のお知らせ

地域創造が取り組んでいる事業を紹介し、公立文化施設や地方公共団体が事業を企画・実施する上で参考になる情報を提供することを目的に、「地域創造フェスティバル2025」を昨年度に引き続き3日間の日程で、会場を神奈川県茅ヶ崎市民文化会館へ移して開催します。

地域創造の登録アーティストや、全国各地の公立文化施設や地方公共団体の文化担当の方々が多数来場されますので、ネットワークづくりや情報交換の場としてもご活用いただけます。ぜひご参加ください。

出演者情報等のプログラム詳細および参加者募集につきましては、次号(7月号)でご案内します。

●地域創造フェスティバル2025概要

[日程] 8月4日(月)～6日(水)

[会場] 茅ヶ崎市民文化会館
(茅ヶ崎市茅ヶ崎1-11-1)

[プログラム]

- 公立文化施設を取り巻く環境や文化政策のこれからを考えるシンポジウム
- 公共ホール音楽活性化支援事業(おんかつ支援)のプレゼンテーション
- 公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)のプレゼンテーション
- 助成要綱・事業に関する説明会
- 事業(おんかつ・邦楽・ダン活・リージョナル・美活)に関する個別相談会
- 情報交換会

【同時開催】

都道府県・政令指定都市文化行政担当課長会議

●令和7年度「公共ホール音楽活性化支援・市町村連携事業」全体研修会を実施

今年度から始まった「公共ホール音楽活性化支援・市町村連携事業」。これは「おんかつ・邦楽事業」の実施団体を対象とし、他の市町村の公共ホールと連携した事業の実施により公共ホール間の連携について考え学ぶ機会の確保および公共ホール職員間の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的とした事業です。

岩手県内で長年行っている独自の連携プロジェクトを継続しつつ、市町村連携事業を活用する令和7年度の実施団体は奥州市、釜石市、北上市、一関市、西和賀町の5市町で、それぞれの市町でアウトリーチを、奥州市で公演を実施します。

4月30日から5月1日にかけて幹事団体である奥州市の前沢ふれあいセンターで実施した全体研修会では、市町村連携事業実施団体である5市町の担当者のほか、岩手県内連携プロジェクトに参加している花巻市や大船渡市など、近隣市町村の関係者が集まりました。事業の概要説明のほか、公共ホール音楽活性化支援事業登録アーティストで本事業参加アーティストでもある野尻小矢佳さんからの事例紹介では、過去のアウトリーチプログラムの紹介や楽器運搬に係る諸注意、対象者についての聞き取りで気を付けることなどの説明がありました。その後のアウトリーチ先の下見研修では、幹事館担当者から野

尻さんの説明も踏まえつつ使用する場所の下見を行う際に見ておかなければならないポイントに参加者と共に確認しました。

経験のある館からノウハウを伝える場面や、次年度以降の継続した連携について協議がなされるなど、2日間を通して和やかな雰囲気の中、活発な意見交換が行われました。事業は9月から10月にかけて実施される予定です。



上：前沢ふれあいセンターでの全体研修会の様子
下：岩手県立前沢高等学校での下見研修の様子

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●令和7年度地域創造大賞(総務大臣賞) 募集開始時期について

地域創造大賞(総務大臣賞)は、地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰し、全国に広く周知することにより、公立文化施設のさらなる活性化を図り、美しく心豊かなふるさとづくりの推進に寄与することを目的としています。平成16年度から令和6年度までの21年間で148施設が受賞しました。

実施要領・応募書については、後日当財団ホームページに掲載する予定です。ご応募をお待ちしています。

造大賞(総務大臣賞)表彰式



令和6年度地域創造大賞(総務大臣賞)授賞式

●令和6年度事業報告書 ホームページ公開のお知らせ

令和6年度の各事業報告書を当財団ホームページで今後随時公開予定です(PDF版を閲覧・ダウンロード可能です)。

「財団のご案内」→「事業報告書・事業計画書等」
<https://www.jafra.or.jp/about/report.html>

地域創造が運営しているホームページは、地域の文化・芸術に関する情報をより広く提供することを目的に、当財団の概要・事業紹介のほか、地域創造レターや調査研究報告書を掲載し、地域の最新の動向・活動等をお伝えしています。また各事業の実施要綱や申請書、様式をダウンロードすることもできます。

地域における文化・芸術活動の情報収集、公立文化施設の活性化や芸術環境づくりに、ぜひご活用ください。

●地域創造大賞(総務大臣賞)に関する問い合わせ

芸術環境部 山下・益子
Tel. 03-5573-4054
taishou@jafra.or.jp

●市町村長特別セミナーに関する問い合わせ

芸術環境部 柴田
Tel. 03-5573-4064

●令和7年度「市町村長特別セミナー」報告

地域創造では、文化・芸術による地域づくりへの理解を深めていただくため、全国の市町村長を対象とする「市町村長特別セミナー」を実施しています。4月24日に、市町村職員中央研修所(市町村アカデミー)との共催により、文化・芸術による地域づくりについての講義とおんかつ支援登録アーティストによるミニコンサートを実施しました。

講義は「社会とアートのつながりー東京藝大の文化的処方への取り組みについてー」と題し、東京藝術大学長でアーティストの日比野克彦さんが登壇され、東京藝術大学が実践するアートの力によって社会的な課題の解決を目指す取り組みについて、日比野さんが代表を務めるプロジェクト「芸術未来研究場」の実例を紹介しながら、わかりやすくご講義いただきました。

なかでも特に力を入れて取り組んでいるのが、「文化的処方」。これは、個々人が抱える諸課題や地域の文化芸術資源などを踏まえ、アート活動や福祉等を組み合わせ、そ

の人がその人らしくいられるレジリエントな場所やクリエイティブな体験を創り出すことで、楽しさと感動を生み出し、心が解放され、人と人との緩やかなつながりや心地良いコミュニケーションを自然と発生させ、個人に活動する意欲や幸福感の増進等を与えようとするもの。岐阜県での取り組みなどを交えてご説明いただきました。

今回の講義では、アートが鑑賞者に対しより良い影響を与えるとといった価値に気づかされる貴重な機会となりました。

講義に続いて、地域創造おんかつ支援登録アーティストのアーバンサクソフンカルテット(サクソフン四重奏)による、受講者を小学生に見立てた模擬アウトリーチコンサートが行われました。最初は戸惑っていた受講生でしたが、アーティストによるサクソフンの構造の説明や、低音パートから順番に音を重ねていく曲名当てクイズなどを通じて、次第に童心に帰って楽しむ様子が見られたほか、プロの演奏家による迫力ある演

奏を間近で体験したことで、アウトリーチコンサートの持つ魅力や意義への理解を深めていただくことができました。



上：日比野克彦さんによる講義/下：アーバンサクソフンカルテット(サクソフン四重奏)によるミニコンサート

地域通信

●掲載情報について

最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 伊藤・中嶋

●2025年8月号情報締切

6月20日(金)

●2025年8月号掲載対象情報

2025年8月～10月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●札幌市

北海道立三岸好太郎美術館
〒060-0002 札幌市中央区北2条西15丁目
Tel. 011-644-8901 福地・井内
<https://artmuseum.pref.hokkaido.lg.jp/mkb/>

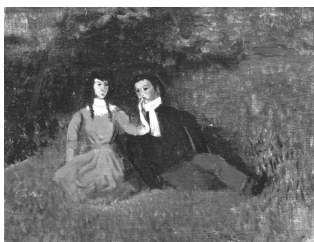
所蔵品展プレミアム

「三岸節子生誕120年 永遠のオマージュ 好太郎と節子」

戦前のモダニズムを代表する洋画家である三岸好太郎の画業を振り返りながら、同じく洋画家である妻・節子が果たした役割を浮かび上がらせる展覧会。好太郎没後の顕彰への献身と、節子自身の芸術について油彩、水彩、版画によりその一端を紹介。互いに捧げあった愛と尊敬の在りようから、その魅力に迫る。

[日程]6月28日～8月28日

[会場]北海道立三岸好太郎美術館



三岸好太郎《二人人物》(1923年頃、北海道立三岸好太郎美術館蔵)

●北海道鹿追町

神田日勝記念美術館
〒081-0292 鹿追町東町3-2
Tel. 0156-66-1555 杉本圭吾
<https://kandanissho.com/>

2025年度コレクション展Ⅰ

「トリビュート神田日勝」

今年度のコレクション展第1弾は、神田日勝の作品とともに、日勝を中心につながる作家たちの作品を紹介する。日勝の象徴的な作品《馬(絶筆・未完)》をはじめ、同時代に画業の研鑽に切磋琢磨してきた、おとおひでお、

齊藤隆博、渡邊禎祥らの作品、日勝をリスペクトし日勝作品をオマージュして制作された現代作家の作品が一堂に会する。

[日程]4月16日～6月22日

[会場]神田日勝記念美術館

●青森県弘前市

弘前れんが倉庫美術館
〒036-8188 弘前市吉野町2-1
Tel. 0172-32-8950 佐々木・宮本
<https://www.hirosaki-moca.jp>

開館5周年記念展

「ニュー・ユートピアーわたしたちがつくる新しい生態系」

遠い理想郷ではない、未来のユートピアとは何かを考えようとする展覧会。私たちの身近な世界に広がるユートピアのさまざまな形を示す作品等を紹介する。注目アーティストの新作や、同館のコレクションを楽しむことができ、コレクションには作家が弘前にリサーチに訪れてつくられた作品も多い。ほかに、津軽で出土した土器、津軽地方に伝わる伝統的刺し子「こぎん刺し」も展示する。

[日程]1期:4月4日～7月7日

2期:7月11日～11月16日

[会場]弘前れんが倉庫美術館

●福島県福島市

福島県立美術館
〒960-8003 福島市森合字西養山1
Tel. 024-531-5511 濱田洋亮
<https://art-museum.fcs.ed.jp/>

福島アートアニュアル2025

「site-representation 土田翔／鈴木悠哉」

福島県出身・ゆかりの作家を紹介するシリーズ企画。第4回となる今回は、風景や場所をテーマに、それぞれのアプローチで表現を試みる福島市出身の2名の作家を紹介する。東北の山々などをモチーフに独自の日本画を描く土田翔と、フィールドワーク

により都市の景観を抽象化し、立体や映像を展開する鈴木悠哉の表現を通し、現代における場所を表象することの可能性を考える。

[日程]6月7日～29日

[会場]福島県立美術館

●福島県柳津町

やないづ町立斎藤清美術館
〒969-7201 河沼郡柳津町大字柳津字下平乙187
Tel. 0241-42-3630 伊藤たまき
<https://www.town.yanaizu.fukushima.jp/bijutsu/>

斎藤清 祈りの形象学(フォルモロジー)

生まれ故郷の雪景色を描いた「会津の冬」シリーズで知られる版画家・斎藤清(1907～97)のもう一つのライフワークとも言うべき、仏教的テーマを扱った作品を紹介する企画展。法隆寺献納宝物の菩薩半跏像にはじまり、唐招提寺など奈良の古寺に伝わる仏像、九州の摩崖仏、そして晩年を過ごした奥会津の石仏たちへと至るイメージの変遷が物語る画家の深い想いを、版画・墨画約70点を通してたどる。
[日程]4月12日～6月15日
[会場]斎藤清美術館

関東

●茨城県北茨城市

茨城県天心記念五浦美術館
〒319-1703 北茨城市大津町椿2083
Tel. 0293-46-5311 塩田耕雄
<https://www.tenshin.museum.ibk.ed.jp/>

浮世絵展—隅田川でたどる江戸の暮らしと文化—

北茨城市出身のコレクターによる浮世絵のプライベートコレクションを紹介する展覧会。歌川広重、歌川国芳から小林清親まで、浮世絵作品約250点を公開する。コレクションの一部はこれ

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

までも全国の美術展覧会で出品されてきたが、この規模での公開は今回が初めて。江戸時代後半から明治時代にかけての浮世絵の精華を示す同コレクションから、隅田川地域が育んだ豊かな暮らしと文化を感じられる。
[日程] 4月26日～6月8日
[会場] 茨城県天心記念五浦美術館

●さいたま市

彩の国さいたま芸術劇場
〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1
Tel. 048-858-5500 原口さわこ
<https://www.saf.or.jp/arthall/>

コンドルズ埼玉公演2025新作『BORN TO RUN』

芸術監督・近藤良平率いるコンドルズの新作が登場。18作目となる埼玉新作シリーズは、ブルース・スプリングスティーンの名曲『Born To Run』をテーマに、ダンスや生演奏、人形劇、映像、コントなど多彩な演出が融合。舞台空間を存分に活かし、学ラン姿のダンサーたちが熱いパフォーマンスを展開。笑いと遊び心に満ちた予測不可能なステージが観客を魅了する。

[日程] 6月7日、8日

[会場] 彩の国さいたま芸術劇場



コンドルズ埼玉公演2024『Here Comes The Sun』より ©HARU

●埼玉県川口市

川口総合文化センター・リリア
〒332-0021 川口市西川口1-7-1
※施設休館中に伴う仮事務所
Tel. 048-258-2000 平井朋子
<https://lilia.or.jp/>

【リリア休館中出張公演】カテリーナ バンドゥーラ・コンサート～ウクライナの民族楽器バンドゥーラの調べ～

ウクライナの伝統的な民族楽器であるバンドゥーラのコンサート。カテリーナは6歳の時にチェルノブイリ原発で被災した子どもたちで構成された音楽団「チェルボナカーナ」に入団後、海外公演に多数参加。現在、日本の数少ないバンドゥーラ奏者の1人として、ウクライナ民謡や日本歌曲を演奏。祖国のウクライナと日本の架け橋となり、平和の調べを届け続けている。

[日程] 6月14日

[会場] 川口駅南市民ホール フレンディア



カテリーナ

●埼玉県和光市

和光市民文化センター
〒351-0192 和光市広沢1-5
Tel. 048-468-7771 塚田美穂
<https://www.sunazalea.or.jp/>

誰でもコンサート 2025 ～Over The Border～

ひまわりの花言葉「あなたは素晴らしい」をコンセプトに2019年から実施しているコンサート。声が出てしまっても大丈夫など、会場の環境等にも配慮し、未就学児やその保護者、障がいのある方や高齢者など、誰もが楽しめるプログラムを地元若手アーティストが演奏する。また、障がいのある児童で結成された「白子ほのぼの合唱団」も出演し、コンサートを盛り上げる。

[日程] 6月28日

[会場] 和光市民文化センター サンアゼリア



昨年の様子(白子ほのぼの合唱団)

●千葉県市川市

市川市文化会館
〒272-0025 市川市大和田1-1-5
Tel. 047-379-5111 田所久仁子
<https://www.tekono.net/bunkakaikan/>

市川市文化会館 開館40周年 記念 祝祭管弦楽団スペシャルコンサート

開館40周年を記念して開催する演奏会。「祝祭管弦楽団」は、市川市文化振興財団が若手音楽家の発掘・育成のために開催してきた「新人演奏家コンクール」の入賞者と、オーケストラ首席奏者を中心に結成された。2022年の初演をきっかけに、23年は弦楽、24年は管楽でそれぞれコンサートを行い、今回再び管弦楽団として集結。新たにコンクールの第37回(2024年)入賞者も加わる。

[日程] 6月15日

[会場] 市川市文化会館

●東京都台東区

東京文化会館
〒110-8716 台東区上野公園5-45
Tel. 03-3828-2111 薬袋舞子
<https://www.t-bunka.jp/>

東京文化会館 リラックス・パフォーマンス～世代、障害をこえて楽しめるコンサート～

発達障害や自閉症などで劇場での音楽鑑賞に不安がある方はじめ、あらゆる人が気軽に楽しめる工夫を凝らしたコンサー

ト。字幕タブレットの貸し出しや手話通訳、照明の工夫(客席の照明を完全に暗くしない)などで鑑賞をサポートするほか、公演の約3週間前にプログラムと介助者のガイドをサイトに公開する。今回は自身も発達障害の特性をもつ新進演奏家・中島英寿(ピアノ)が出演予定。

[日程] 6月7日

[会場] 東京文化会館

●東京都調布市

調布市文化・コミュニティ振興財団
〒182-0026 調布市小島町2-47-1 (調布市グリーンホール内)
Tel. 042-481-7611 阿部珠子
<https://chofumusicfestival.com/>

調布国際音楽祭2025

調布のまちを舞台に、多彩なジャンルの公演が楽しめる音楽フェスティバル。13回目を迎える今年のテーマは「Journey Through Music! 音楽の旅へ!」。鉄道ファンとして知られる市川紗椰をゲストに迎え、同じく鉄道を愛する音楽祭エグゼクティブ・プロデューサー・鈴木優人ほかアーティストとのトークも楽しめる「鉄道×音楽」公演や、オーディションに合格した若手演奏家たちで構成される「フェスティバル・オーケストラ」による公演など、オリジナルティあふれるプログラムを展開。

[日程] 6月21日～29日

[会場] 調布市グリーンホール、調布市文化会館たづくり ほか

●東京都町田市

町田市立国際版画美術館
〒194-0013 町田市原町田4-28-1
Tel. 042-726-2771 宮崎黎
<https://hanga-museum.jp>

日本の版画1200年—受けとめ、交わり、生まれ出る

世界でも数少ない版画を中心とする美術館で、日本の版画1200

年の歴史を巡る展覧会を開催。日本に現存する最古の印刷物である「無垢浄光大陀羅尼經(むくじょうこうだいにきょう)」をはじめ、仏教版画、絵手本や画譜、浮世絵、創作版画、新版画、戦後版画、現代版画など約240点を収蔵品から厳選。特に他の東アジアの国々とのつながりにも注目し、文化交流の視点で日本の版画1200年の歴史をたどる。

[日程] 3月20日～6月15日

[会場] 町田市立国際版画美術館

●神奈川県横須賀市

横須賀美術館

〒239-0813 横須賀市鴨居4-1

Tel. 046-822-4000 富田・栗林

<https://www.yokosuka-moa.jp/>

令和7年度第1期所蔵品展 特集 須藤オルガン工房の半世紀：その音と形

横須賀市浦賀に工房を構え、各地のホールや教会のオルガンを製作してきた須藤オルガン工房のマイスター・須藤宏。半世紀にわたる歩みを、過去に製作した約10台のオルガン模型や写真、図面等の資料によって振り返り、製作現場から見たオルガンの新たな魅力を発見する。建築空間に合わせて製作されるオルガンの個性を堪能できる展覧会。

[日程] 5月17日～7月6日

[会場] 横須賀美術館

北陸・中部

●新潟市

りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館

〒951-8132 新潟市中央区一番堀通町3-2

Tel. 025-224-5627 坂内佳子

<https://www.ryutopia.or.jp/>

Noism0 + Noism1

『アルルの女』／『ボレロ』

りゅーとぴあ専属舞踊団Noism

Company Niigataが、ビゼー没後150年、ラヴェル生誕150年の節目に、Noism芸術総監督・金森穰の演出振付による最新作を上演。『アルルの女』はビゼーの劇付随音楽および組曲版を用い、戯曲に着想を得て独自の切り口から創作。同時上演の『ボレロ』は、劇場版新演出で初披露される。生と死を象徴する、対をなす2作品から人間の本質に迫る。

[日程] 6月27日～29日

[会場] りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館

●富山県富山市

富山市ガラス美術館

〒930-0062 富山市西町5-1

Tel. 076-461-3100 西田真

<https://toyama-glass-art-museum.jp/>

富山ガラス工房開設30周年記念展 Gathering (ギャザリング) つなぐ創造力

技術と芸術、産業と文化を結ぶガラス造形作家の活動拠点となっている「富山ガラス工房」開設30周年を記念し、歴代所属作家の作品が一堂に会す。「富山の薬売り」に欠かせないガラスの薬瓶製造を歴史背景にもつ富山ガラスの可能性を切り開き、ガラス文化の裾野を広げてきた工房の軌跡をたどり、未来へ続く針路を展望する。

[日程] 3月8日～6月22日

[会場] 富山市ガラス美術館



輪島明子《熾火の分子》(2022年)

●富山県黒部市

黒部市美術館

〒938-0041 黒部市堀切1035

Tel. 0765-52-5011 尺戸智佳子

<https://kurobe-city-art-museum.jp/>

黒部市美術館開館30周年 コレクション展vol.2 「通りぬけて、ふれる—シルクスクリーン版画を中心に」

開館30周年を契機としたコレクション展。木版画を中心に展示したvol.1に続き、vol.2となる本展では戦後の新たなメディアや動向と結びつき、軽やかに時代を切り開いてきたシルクスクリーン版画の多彩な表現を700点に及ぶ版画コレクションより紹介する。「版」の概念を起点とし自由で伸びやかな表現を展開する富山県出身の版画家・橋本文良の小企画展も同時開催。

[日程] 4月26日～6月22日

[会場] 黒部市美術館



野田哲也《日記1969年7月19日》
(1969年、木版、シルクスクリーン)

●石川県金沢市

金沢21世紀美術館

〒920-8509 金沢市広坂1-2-1

Tel. 076-220-2800 野中・宮澤

<https://www.kanazawa21.jp/>

積層する時間：この世界を描くこと

開館21年目を迎える金沢21世紀美術館は、世界の「現在(いま)」とともに生きる美術館としてアートや表現のプログラムを展開してきた。本展では、過去の記憶や現在という時間、未確定な未来について、絵画やドローイング、アニメーション、版画な

どの手法を用い、土地がもつ歴史・神話、生と死という生命の時間など、参加アーティストの問題意識や関心から複数の積層した時間が描き出された作品を紹介する。

[日程] 4月29日～9月28日

[会場] 金沢21世紀美術館

●福井県福井市

ハーモニーホールふくい

〒918-8152 福井市今市町

40-1-1

Tel. 0776-38-8288 長谷川佳子

<https://www.hhf.jp/>

連弾の妙技 ～The ORGAN～

ホール初の連弾にフィーチャーしたオルガン公演。4歳から入場できる本公演は、実力派オルガニスト・長田真実と大平健介が夫婦で奏でる美しいオルガンの響きから、子どもも楽しめるリズムあそびまで、両名の妙技を堪能できるプログラムとなっている。また終演後に開催する「オルガン探検ツアー」「わくわく楽器体験ツアー」により、楽器への興味をさらに探求できる機会も提供される。

[日程] 6月8日

[会場] ハーモニーホールふくい

●長野県松本市

松本市芸術文化振興財団

〒390-0815 松本市深志3-10-1

Tel. 0263-33-3800

<https://www.mpac.jp/>

0歳からお年寄りまで、みんなのコンサート「はじめまして！」

昨年4月に芸術監督団お披露目公演として上演された、参加型のスペシャルコンサート。ポップスやクラシック、洋楽など年代を問わずお馴染みの楽曲を選曲し、小さな子どもがいる家族も気軽に来場できるような工夫が満載。監督団の石丸幹二、木ノ下裕一、倉田翠とミュージシャンたちが、歌・演劇・ダンスで観客

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

と一緒に歌ったり踊ったり、からだ全体で新しい音楽体験が楽しめる。

[日程] 7月5日

[会場] まつもと市民芸術館

●静岡市

静岡音楽館AOI

〒420-0851 静岡市葵区黒金町1-9

Tel. 054-251-2200 山本れいな

<https://www.aoi.shizuoka-city.or.jp>

子どものためのコンサート 「古楽器木管八重奏で楽しむ フィガロの結婚」

静岡音楽館AOIが毎年開催している「子どものためのコンサート」。各時代に相応しい楽器を使用して演奏する古楽アンサンブル「レ・ヴァン・ロマンティーク・トウキョウ」による優しい響きの古楽器の音色と、劇団SPACの俳優・宮城嶋遥加によるお話しで、モーツァルトの名作『フィガロの結婚』の魅力を紹介する。構成作家・新井鷗子によるオリジナルの台本にも注目。

[日程] 7月5日

[会場] 静岡音楽館AOI

●愛知県幸田町

幸田町文化振興協会

〒444-0103 幸田町大字大草字丸山60

Tel. 0564-63-1111 金澤大介

<https://www.happiness.kota.aichi.jp/hall/>

Three pianos concert by three pianists 2025

幸田町民会館が所有する3台のフルコンサートグランドピアノ(スタインウェイD-274、ヤマハCF-Ⅲs、カワイSK7)を3人のピアニストが演奏するピアノだけのスペシャルオーケストラコンサート。地域創造のおんかつ支援アーティストとしてもお馴染みの新居由佳梨、中川賢一、白石光隆が、バーンスタイン『キャンディード序

曲』やチャイコフスキー『くるみ割り人形』、ラヴェル『亡き王女のためのパヴァーヌ』などの名曲を奏でる。

[日程] 6月28日

[会場] 幸田町民会館

近畿

●滋賀県大津市

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

〒520-0806 大津市打出浜15-1

Tel. 077-523-7133 藤原望美

<https://www.biwako-hall.or.jp/>

びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう!

びわ湖ホール芸術監督・阪哲朗が指揮する大編成のオーケストラで聴く名曲揃いのコンサート。滋賀県内すべての小学校および特別支援学校等を対象として2011年から毎年開催している学校鑑賞事業「ホールの子」を一般の方にも同じ内容で開催する。クラシックや映画音楽などの名曲を演奏し、ステージ後方の巨大スクリーンには演奏者の姿や各曲の解説を投影。客席の観客と共に合唱するプログラムもあり。

[日程] 5月31日

[会場] 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

●大阪府高槻市

高槻市文化スポーツ振興事業団

〒569-0077 高槻市野見町6-8

Tel. 072-671-9999 大倉憲斗

<https://www.takatsuki-bsj.jp/tat/>

高槻de演劇2025

高槻を拠点とする市民劇団の育成を目的として、前身の高槻現代劇場時代から10年以上にわたって取り組んでいる市民劇のフェスティバル「高槻de演劇」。今年は、シニア劇団2団体を含む計3劇団による作品上演に加え、舞台美術関連企画を実施。舞台美術家・竹内良亮による作品の一般公開と舞台美術にま

つわるトークセッションを開催。

[日程] 6月21日～7月6日

[会場] 高槻城公園芸術文化劇場

●大阪府能勢町

淨るりシアター

〒563-0341 豊能郡能勢町宿野30

Tel. 072-734-3241 乾はるな

<https://www.jyoruri.jp>

2025年6月能勢淨るり月間 能勢人形浄瑠璃鹿角座公演

能勢町では、200年の歴史ある素浄瑠璃を継承すべく、1998年に人形・囃子を加え「能勢人形浄瑠璃」がデビュー。2006年には「鹿角座」として劇団化し、ユニークな演出など、“能勢オリジナル”の舞台づくりを行っている。今年は、オリジナル演目『能勢三番叟』をこども浄瑠璃が中心となって上演するほか、『風神雷神』や古典演目『生写朝顔話』を9年ぶりに再演する。

[日程] 6月28日、29日

[会場] 淨るりシアター



『能勢三番叟』(こども浄瑠璃)

●神戸市

神戸文化ホール

〒650-0017 神戸市中央区楠町4-2-2

Tel. 078-361-7241 森岡めぐみ

<https://www.kobe-bunka.jp/hall/>

神戸市室内管弦楽団 第168回 定期演奏会『トルコ趣味はいかが?』

神戸に生まれ、神戸市室内管弦楽団創立メンバーの音楽監督・鈴木秀美の指揮によるウィーン古典派音楽のコンサート。1727年製のストラディヴァリウス「パ

レレ」を軽やかに弾きこなすオランダきつてのヴァイオリニスト、ロザンネ・フィリップペンスを迎え、オスマントルコ帝国の影響を受けた18世紀のウィーンの作曲家たちの異国風な音やリズムを盛り込んだ音楽を演奏する。

[日程] 6月7日

[会場] 神戸文化ホール

●兵庫県西宮市

西宮市文化振興財団

〒662-0918 西宮市六湛寺町10-11 西宮市民会館6F

Tel. 0798-33-3146 田口正夫

<https://nishi-bunka.or.jp/>

西宮市100周年記念コンサート 「あなたと歩んだ音楽、ここに あります。」

2023年より西宮市文化振興財団と包括連携協定を締結し、数々のコンサートやアウトリーチを行うミ・ベモル サクソフォンアンサンブルと、西宮在住のピアニスト・長富彩、西宮出身のソプラノ歌手・斉戸英美子といった西宮市ゆかりのアーティストと共に市制施行100周年を祝うコンサートを開催する。第1部は魅惑のクラシック、第2部は音楽で綴る100年をテーマに、市民と共に歩んだ名曲を奏でる。

[日程] 6月21日

[会場] 西宮市民会館アミティ・ベイコムホール

●和歌山県和歌山市

和歌山県立近代美術館

〒640-8137 和歌山市吹上1-4-14

Tel. 073-436-8690 宮本久宣

<https://www.momaw.jp/>

佐藤春夫の美術愛

新宮市に生まれた文豪・佐藤春夫(1892～1964)。令和6年度に彼が所蔵していた美術作品61件・148点の寄贈を受けたことを記念して開催される展覧会。若き日に抱いた美術へのあこが

れを生涯持ち続けた春夫の知られざるコレクション、また春夫ゆかりの美術作品を通じて、文豪と美術との関わりについて理解を深めるとともに、改めて春夫の作品世界を知り、親しんでもらう契機とする。

[日程] 4月12日～6月29日

[会場] 和歌山県立近代美術館

中国・四国

●岡山県奈義町

奈義町現代美術館

〒708-1323 勝田郡奈義町豊沢441

Tel. 868-36-5811 岸本和明

<https://www.town.nagi.okayama.jp/moca/>

Xanthium occidentale オオオナモミが語るもの 岩谷雪子

植物を使って緻密で繊細な立体造形やインスタレーション作品を制作する造形作家・岩谷雪子による展覧会。1929(昭和4)年に初めて岡山県内で確認された外来種の植物「オオオナモミ」を岩谷が全国から集めて制作した大掛かりなインスタレーション作品により、岡山ゆかりの植物を通して人と自然(植物)が共存していくことの意味を実感できる展示となっている。

[日程] 4月19日～6月22日

[会場] 奈義町現代美術館

●広島県呉市

呉信用金庫ホール

〒737-0051 呉市中央3-10-1

Tel. 0823-25-7878 塩谷富美恵

<https://www.kure-bunka.jp/>

オープンデイVol.6「パ・パ・パーティ! 打楽器100重奏!」

呉信用金庫ホールを開放し、コンサートや体験型のイベントで子どもから大人まで、入場無料で一日楽しめるイベント。今回のテーマは「パーカッション」。市民吹奏楽団による打楽器体験のほか、オリジナル打楽器づくり

体験で製作した楽器をメインステージのコンサートに持ち込み、客席から一緒に演奏することも可能。つくって、体験して、参加して、思いのままに音を鳴らし、たっぷり音楽を楽しめる一日。

[日程] 6月15日

[会場] 呉信用金庫ホール



昨年のオープンデイ(ワークショップ)

●広島県廿日市市

はつかいち文化ホールウッドワンさくらびあ

〒738-8509 廿日市市下平良1-11-1

Tel. 0829-20-0111 佐藤美穂

<https://www.hatsukaichi-csa.net/sakurapia/>

はつかいち室内合奏団“SA・KU・RA”演奏会2025

今年NHK交響楽団コンサートマスターに就任した長原幸太が指揮・独奏ヴァイオリンを務め、エルガーの弦楽セレナードやヴェルディの弦楽四重奏曲などの名曲を通して、弦楽合奏ならではの豊かな響きを披露するコンサート。地域に根ざした演奏活動を展開するプロ・アンサンブルにより、クラシック音楽の魅力を存分に味わえるプログラムとなっている。

[日程] 6月14日

[会場] はつかいち文化ホールウッドワンさくらびあ

●徳島県徳島市

徳島県立近代美術館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山

文化の森総合公園内

Tel. 088-668-1088 久米・笠井

<https://art.bunmori.tokushima.jp/>

開館35周年記念展「キミに夢中♡ ～学芸員のおしごとと愛しき人間像コレクション～」

「人間」をテーマとする近現代の絵画や彫刻、「現代版画」、そして「徳島ゆかりの美術」という3つの柱に基づいて収集されたコレクションのうち、「人間像コレクション」と学芸員の仕事に焦点を当てた展覧会。学芸員の仕事として挙げられる「収集・保存・調査研究・展示・教育普及」の5つの章を設け、選りすぐりの作品約140点についてその魅力を語る。

[日程] 4月26日～8月31日

[会場] 徳島県立近代美術館

●香川県丸亀市

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

〒763-0022 丸亀市浜町80-1

Tel. 877-24-7755 古野・松村

<https://www.mimoca.jp/>

猪熊弦一郎博覧会

丸亀市ゆかりの画家・猪熊弦一郎(1902～93)の70年の長きにわたる画業の中で、戦後の絵画以外の活動に焦点を当てた展覧会。建築家との協働、デザインやパブリックアートの仕事、ニューヨーク滞在時に日米文化交流で果たした役割や著名なアーティストとの交流、故郷の香川県に今の「アート県かがわ」につながる文化的な礎を築いたことなど、国内外に遺した猪熊の足跡をたどる。

[日程] 4月12日～7月6日

[会場] 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館



JR上野駅壁画《自由》修復記念式典時、駅長の帽子を被った猪熊弦一郎(1984年)

九州・沖縄

●福岡市

福岡アジア美術館

〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル7・8F

Tel. 092-263-1100 南陽子

<https://faam.city.fukuoka.lg.jp/>

アジアコレクション

この手が未来を編み直す

福岡アジア美術館では今年度、約5,700点の所蔵作品から2つの大型コレクション展を開催。本展では、アジアの暮らしや文化のルーツを作品に取り込むことで、斬新な現代美術の表現を生んだアーティストたちの作品約50点を紹介。布、糸、刺繍、切り紙などの素材の面白さ、洗練されたデザイン感覚や造形力が大きな見どころ。

[日程] 4月24日～6月22日

[会場] 福岡アジア美術館

●佐賀県佐賀市

佐賀市文化振興財団

〒840-2221 佐賀市東与賀町大字下古賀1228-3

Tel. 0952-45-3939 中野弘文

<http://www.shinpoo.jp/>

邦楽入門 レクチャー&コンサート～邦楽は宝楽! 今こそ届けたい邦楽の魅力～

公共ホール邦楽活性化事業のプレコンサート。佐賀を拠点に全国的に活躍する3人の女流邦楽演奏家(薩摩琵琶の北原香菜子、津軽三味線の高橋浩寿、笛の望月美都輔)による邦楽エマーキートリオが、邦楽の魅力をレクチャー付きでお伝えする。祇園精舎(薩摩琵琶)、津軽じょんがら節(津軽三味線)など各楽器の定番曲のほか、佐賀の民謡『タンス長持唄』などを合奏で披露。

[日程] 6月8日

[会場] 佐賀市立東与賀文化ホール

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

●熊本県宇城市

宇城市不知火美術館
〒869-0552 宇城市不知火町高良2352
Tel. 0964-32-6222 藤田香奈子
<https://www.museum-library-uki.jp/museum/>

海にねむる龍―働正がのこしたもの Tadashi Hataraki and Echoes of Kyushu-ha

戦後の前衛美術集団「九州派」と児童美術教育という、一見相容れない両者の活動を経て最後に絵画へと回帰した現・宇城市不知火町出身の収蔵作家・働正(1934～96)の足跡を紹介する企画展。大牟田市の大蛇山まつりなどに着想を得て子どもたちと制作した版画創作絵本『海にねむる龍』の版画や版木などの貴重な資料も初めて展示する。
[日程] 4月10日～6月10日
[会場] 宇城市不知火美術館

●大分県大分市

大分県立美術館
〒870-0036 大分市寿町2-1
Tel. 097-533-4500 木藤・吉田
<https://www.opam.jp/>

開館10周年記念「LINKS―大分と、世界と。」

開館10周年を記念し、大分県立美術館のコンセプトである「出会いと五感のミュージアム」にちなみ、「出会い」をテーマとした企画展を開催。洋画と日本画の2部構成で約180件の作品や資料を展示し、大分の作家を起点に歴史や時代のなかで世界へと広がっていく「つながり」＝“LINKS”に焦点を当て、作家同士の交流や作家と作品との「出会い」が生んだ近代以降の美術の軌跡を、名品や新たに発見された資料とともにたどる。
[日程] 4月26日～6月22日
[会場] 大分県立美術館

●宮崎県宮崎市

メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)
〒880-8557 宮崎市船塚3-210
Tel. 0985-28-3208 松原尚平
<https://miyazaki-ac.jp/>

Miyazaki アウトリーチアーティスト・エキシビション #7

音楽にふれる機会の少ない方々に音楽を届けることを目的として、平成23年度にスタートした「音楽アウトリーチ」。その第7期登録アーティストとして、2023年から2年間、県内各地で演奏活動を行ってきた2人のピアニスト(佐貫冴美、藤崎美優)によるガラ・コンサートを開催。実際のアウトリーチ・プログラムも披露されるほか、2年間の活動を振り返るパネル展を宮崎市や延岡市で同時開催する。
[日程] 6月22日
[会場] メディキット県民文化センター

●宮崎県都城市

都城市立美術館
〒885-0073 都城市姫城町7-18
Tel. 0986-25-1447 祝迫眞澄
<https://www.city.miyakonojo.miyazaki.jp/site/artmuseum/>

語り合いたい時間

美術に表される「時間」に注目し、時の流れや一瞬の面白さをテーマとした日本画や油絵、工芸作品などを約50点展示。また秋の特別展に関連して、時間を切り取った写真作品として宮崎県の写真家も紹介する。それらの中に漂う時と語り合いながら、時間の存在や輝きを感じ取る。6～8月の展示期間中、伝統行事・六月灯に関連した「灯ろう絵を描くワークショップ」も実施予定。
[日程] 5月20日～6月22日
[会場] 都城市立美術館

●鹿児島県霧島市

霧島国際音楽ホール みやまコンサール
〒899-6603 霧島市牧園町高千穂3311-29
Tel. 0995-78-8000 坂本多恵
<https://miyama-conseru.or.jp/>

パイプオルガン完成記念コンサート

県出身者からの寄付をきっかけに製作が進められたきたパイプオルガンの完成を記念し、県民への披露とオルガンのPRを目的に開催されるコンサート。パイプオルガン製作経緯の紹介、ジャン＝フィリップ・メルカールトによるパイプオルガンの演奏などを行う。今後は、毎月1回の演奏会や活用推進のためのパイプオルガン講座などの開催が予定されている。
[日程] 6月1日
[会場] みやまコンサール(霧島国際音楽ホール)

●鹿児島県鹿児島市

鹿児島県歴史・美術センター黎明館
〒892-0853 鹿児島市城山町7-2
Tel. 099-222-5100 坂口洋幸
<https://www.pref.kagoshima.jp/reimeikan/>

新収蔵品展

鹿児島城の本丸跡に建てられた鹿児島県歴史・美術センター黎明館では、鹿児島の歴史・文化に関わる資料や作品を収集・収蔵している。その中から、近年収蔵した資料や、展示の機会に恵まれなかった資料を中心に関連資料も交えて紹介。今回初めて展示される「霧島山新燃絵図」、県出身の海軍兵士が戦時中に書いた日記など、県の歴史と文化にふれることができる。
[日程] 3月11日～6月1日
[会場] 鹿児島県歴史・美術センター黎明館

●沖縄県那覇市

沖縄県立博物館・美術館
〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1
Tel. 098-941-8200 大城さゆり
<https://okimu.jp>

岸本一夫 オキナワデザイン

オリオンビールや琉球放送(RBC)のロゴ、日本グラフィックデザイン協会のシンボルマーク制作などで知られるグラフィックデザイナー・岸本一夫(1935～)のコレクション展。原点となった油彩画をはじめとする新収蔵作品を展示するほか、ロゴや商品、広告などのデザイン制作過程が見えるドローイングは、1か月ごとに展示内容を入れ替えて公開。岸本が保管していたドローイング1万点の中から、毎回厳選された約90点を楽しむことができる。
[日程] 1月25日～10月19日
[会場] 沖縄県立博物館・美術館



内覧会での岸本一夫(2025年1月24日)

夏休み子ども企画／フェスティバル情報求む！

7月号(6月25日発行予定)では恒例の「夏休み子ども企画／フェスティバル特集」を予定しています。下記までどしどし情報をお寄せください。

Tel. 03-5573-4093
Fax. 03-5573-4060
letter@jafra.or.jp
締め切り：6月2日(月)

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げて
レポートします

滋賀県大津市

滋賀県立芸術劇場びわ湖 ホール びわ湖の春 音楽祭2025



上: オープニング・コンサート
(写真提供: びわ湖ホール)
下: ロビーコンサートの様子

● びわ湖の春 音楽祭2025 ～挑戦～
[会期] 2025年4月26日、27日
[主催] 滋賀県、(公財) びわ湖芸術文化財団

[会場] 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
[出演] 阪哲朗(指揮/びわ湖ホール芸術監督)、村上寿昭(指揮、ピアノ)、京都市交響楽団、京都フィルハーモニー室内合奏団、びわ湖ホール声楽アンサンブルほか

*1 1998年3月に設立された日本初の公共ホール専属声楽家集団。びわ湖ホールのオペラや定期演奏会への出演に加え、滋賀県内の学校などへのアウトリーチ活動を積極的に展開。現在のメンバーは14名。OBは総勢80名を超え、ソロ登録メンバーとしてびわ湖ホール事業以外でも幅広く活動。

*2 2011年スタート。滋賀県内すべての小学校および特別支援学校等をびわ湖ホール声楽アンサンブルが出演するオーケストラコンサートに無料招待。2025年度は6日間12公演で203校・約1万3,000人を招待。

*3 2024年度創設。A部門(小学生以下)、B部門(高校生以下)、C部門(年齢不問の一般)。映像審査、予選(びわ湖ホール中ホール)、本選(大ホール)で審査を行い、優秀者にはびわ湖ホールでの活動の機会を提供。

2023年に沼尻竜典から阪哲朗に芸術監督が交代し、動向が注目されているびわ湖ホール。その変化を象徴する事業のひとつ、阪が総合プロデュースする「びわ湖の春 音楽祭2025」が4月26日、27日に開催された。

それまでも音楽祭は行われていたが、阪が名称を変更し、今回が3回目。毎回、翌年春に上演するプロデュースオペラに合わせてテーマを設定しており、今年はオペラ『トゥーランドット』の謎解きに挑む主人公にちなんだ「挑戦」がテーマ。京都市交響楽団によるオープニング・コンサート(阪指揮)ではその『トゥーランドット』でタイトルロール(Wキャスト)を演じる並河寿美が歌声を披露してオペラへの期待を高め、浜松国際ピアノコンクール優勝者である鈴木愛美がベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番を演奏した。

また、滋賀県高等学校合同合唱団とプロの声楽家の集団であるびわ湖ホール声楽アンサンブル^(※1)との共演、邦楽の片岡リサ(箏・歌)と西尾恵子(ヴァイオリン)・鈴木華重子(ピアノ)とのコラボレーション、0歳児からのコンサート、第1回びわ湖ホールピアノコンクール1位受賞者の演奏、無料のロビーコンサートなど全館を使った“挑戦”を約1万2,800人が堪能した。



びわ湖ホールでは2010年から17年まで、フランスのナントに起源をもつ「ラ・フォル・ジュルネびわ湖『熱狂の日』」、18年から当時の沼尻芸術監督のプロデュースで「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」を開催してきた経緯がある。2年前に音楽祭のタイトルから「クラシック」の文字を外した阪は、「日本ではクラシック、洋楽などと括られますが、ヨーロッパでは各国の人たちが誇りをもって、これはフランス人の音楽だ、いや、イタリア人の音楽だなどと言っている。つまり民族音楽のようなものです。ですからこの音楽祭でも、多様なジャンルを紹介していきたいと考えています」と語る。

ロビー近くには特産品の出店、屋外にはキッチンカーが並び、休日にはふさわしい活気。村田和彦館長は、「ホールは音楽を提供するだけでなく、街の賑わいを取り込み、あるいは街の

賑わいに貢献する存在であるべき。音楽を楽しむ体験には、ひとりで聴くだけではなく、仲間と一緒に語り合うことも含まれますから、飲食や関連イベントなどの“仕掛け”も大切になっています」と言う。

滋賀県内すべての小学校、特別支援学校等の子どもたちをホールに招く「ホールの子」事業^(※2)など、育成に力を入れてきたびわ湖ホール。こうした取り組みが音楽祭の下支えにもなっている。加えて新たに創設したのが、課題曲も年齢制限もない「びわ湖ホールピアノコンクール」^(※3)だ。阪は、「びわ湖ホールらしいコンクールをと皆で考えました。コンクールには、即戦力か、将来性を見るかの2種類があると言われますが、我々は絶対評価で昨日の自分や今日の自分を明日超えられるかといった挑戦を重んじています。出場者には、高校生や音大生もいれば、最近弾いていないけれどコンクールを励みに練習するという人もいます。さまざまな方に場を提供したいと考えています」と意気込む。

ただし、びわ湖ホールは26年7月から20カ月間の大規模改修に入り、活動すべてを別の場所で行うことになる。しかし、ヨーロッパの歌劇場で首席指揮者や音楽監督を歴任してきた阪は、この試練を物ともしない。

「予算が大幅にカットされて合唱団員がいなくなり、知恵を絞って合唱なしでオペラを上演したこともあれば、劇場から外へ出ていこうという支配人の下で、ドナウ川沿いの工場の跡地でオペラを上演したことも。リミットがある中、何を優先させるかを、ギリギリの線で見極めてきた経験は、コロナ禍でも役に立ちましたし、改修中にも生きてくると思います」(阪)

期間中の活動場所については、県内各所はもちろん、県外、さらには海外へ(!?)と夢が膨らむ。こうした計画が立てられるのも経験を重ねてきた声楽アンサンブルと、開館以来前線で抱えてきた技術スタッフの存在があるからだ。阪、村田両氏が口を揃えたのは「ピンチではなくチャンス」という言葉。柔軟に、ポジティブに、びわ湖ホールの活動は続いていく。

(舞台芸術ライター・高橋彩子)